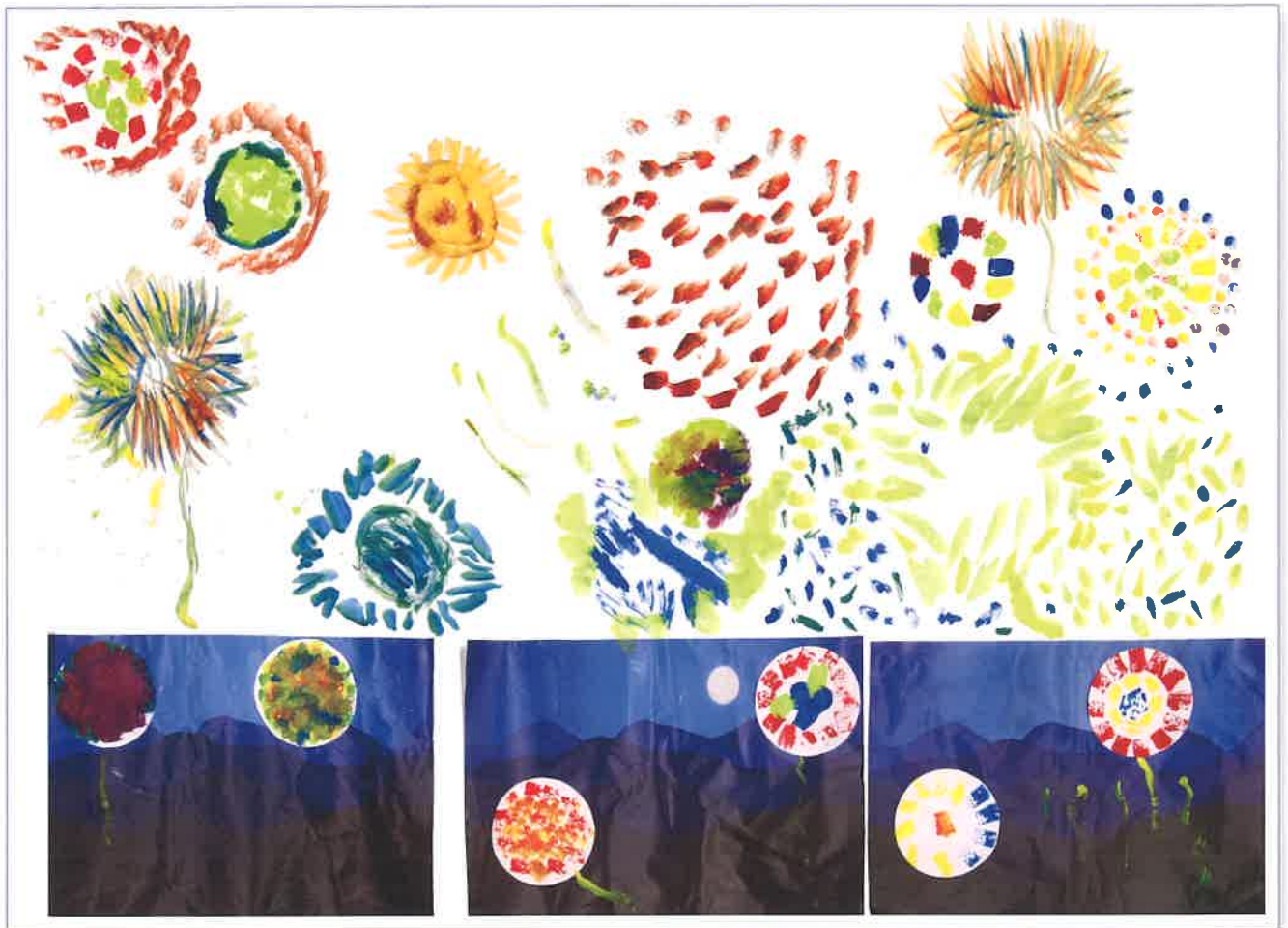




ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな**未来**をめざして



「いろんな花火」共同制作 つゆはし作業所のみなさん ※紹介が11ページにあります。

CONTENTS

- ▶ シリーズ 新型コロナウイルス禍に思う① P2 ~ 3
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の発生をうけて① P4 ~ 5
- ▶ 2020年度 資格取得者紹介 P6 ~ 7

2020年7月10日 毎月1回10日発行 一部100円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ

新型コロナウイルス禍に思う①



ゆたか福祉会 保護者

浅野美子

今回から「新型コロナウイルス禍に思う」と題して、様々な皆さんにご登場頂きます。嘗て経験したことのない事態に直面し、それぞれの組織や団体、個人はどのような困難や課題にぶつかり取り組んできたのか、情報発信をしながらつながり、学び合っ
ていきたいと思えます。

第1回目は、当法人の運営協議会のメンバーでもある保護者の方にご登場頂きます。

私には知的障がいのある子どもが3人おり、長女は「トライズ」、長男はNPO法人の生活介護、二男は「リサイクルみなみ作業所」にいます。2年前、長女が肺炎にかかり、私が付添同意書を提出し入院。長男・二男は契約している複数の短期入所施設での緊急受入れ調整は難しく、夫が4日間面倒をみてくれました。平時・緊急でも短期入所利用はできませんでした。また、小学校区で発災時に関するアンケートが配られた時には、避難所に行くことは難しいので「在宅避難の予定」と明記して、要

保護者名簿を提出してあります。

「愛知県障害児の地域生活を保障する連絡会（よかネットあいち）」は2001年に発足し、交流会、学習会、名古屋市の出

前講座、愛知県の講座等を毎年開催。名古屋市・愛知県にも要望書提出、懇談を続けてきました。

今回のコロナ禍で、当初は家族の誰が感染しても在宅療養を覚悟していました。ただ、「本人たちや介護している私が感染した場合どうなるのか？」計画相談員、基幹相談支援センター、障害支援課に問い合わせても回答を得られませんでした。終わりの見えない、刻々と変化する状況の中で、ケアラー（障がい児者、乳幼児、高齢者を介護する人）は不安を募らせていました。そこで、4月23日に名古屋市長宛、4月25日に愛知県知事あてに要望書を提出しました。

- 1、本人が感染した場合、受け入れ先（宿泊施設や病院）では、避難所の福祉ルームのような取り扱いで付添可能にしてください。
- 2、介護者が感染した場合、濃厚接触者になりうる本人たちの支援を一般の短期入所で受入れが難しいと思うので、公的な機関や施設を利用して、受け入れ先を確保してください。
- 3、緊急の短期入所制度の拡充と、関係各位への早急の周知をお願いします。



新型コロナウイルス感染症で、障害のある子どもを持つ県内の親たちが、子どもや自身が感染した場合の子どもの介護に不安を募らせている。親らでつくる団体「県障害児の地域生活を保障する連絡会」(名古屋市熱田区)は、障害者が感染して病院や宿泊施設で療養する際に、親ら介護者の付き添いを求めることを求める要望書を、県と市へ提出した。(出口有紀)

提出は四月二十四日。親が感染したときの障害者の受け入れ先確保も求めた。連絡会会員で名古屋市緑区の女性(心)は、知的障害がある長女(心)が住む市内のグループホーム(GH)で、感染を疑われる利用者が出て、GHが四月に一時自主休業した際、帰宅した長女の世話をした。「自分が感染する覚悟でやるしかない」と腹をくくった。

親らの団体が要望書

県と市による、障害者が感染したときも原則指定の医療機関入院しても、軽症や無症の場合は、東浦町のあいち健康プラザ健康宿泊館などに県が開設した一時入所施設へ移すつもりだ。連絡会に加盟し、どのような配慮が必要か、家族や医療機関などと相談し、個別に対応する。県の担当者は「付添いしたいという家族の気持ちは大々あるが、感染拡大のリスクがあり難しい」と否定的だ。



一方、保護者が感染し、子どもの世話が難しくなった場合は、県では十八歳未満は障害の有無にかかわらず児童相談センターが一時保護所で子どもを預かる。成人などは、ショートステイ施設に入所することもある。ただ、県と市の担当者は「受け入れ先が見つからないケースも考えられる」と話す。障害者の中には、自分が直面する状況の理解に時間がかかったり、周囲の環境が変わると、パニックを起したりする人もい。連絡会の浅野美子会長(心)「名古屋市南区」は「感染しても、常に介護が必要な状況は変わりなく、介護者たちの多くが不安に感じている。災害時の福祉避難所のような特別な対応を考えてほしい」と求めている。



〈人間並み〉
(公園で子猫を保護)
母 赤ちゃん猫だよ
2人の子(猫に向かっ
ていない)いないほあー
祖母 お英子持つていく?
孫 お父さんが好きだから
ゆむ(心) 中川区、祖母
・位田(英)
(後の分なくなる)
(祖母宅からの帰り際)
祖母 お英子持つていく?
孫 お父さんが好きだから

障害者感染「付き添い認めて」

名古屋市、愛知県に限ったことではないので、よかネットあいちが加盟する「障がいのある子どもの放課後保障全国連絡会(全国放課後連)」、つながりのあったケアラー連盟等に情報共有し、全国的に要望を

上げている状況です。これまでは、担当課への要望書提出でしたが、非常時の今、コロナ対応の専用窓口が設けられ、市長宛、知事宛で提出できたことが平時との違いです。5月23日付、中日新聞にも記事掲載していただきました。

名古屋市長・愛知県からの回答は残念ながら、「まだ具体的な方策はなく、現場と相談・調整」というあいまいさ。6月25日現在、全国的には神奈川県「介護者がコロナ入院で不在となった在宅の高齢者・障がい者を受け入れる専用入所施設の設置、および福祉施設の感染発生時の応援職員派遣事業」、神戸市「介護者が新型コロナウイルスに感染した高齢者・障害者のための一時受け入

れ施設を設置」、堺市「介護者が感染した場合の要介護者等(高齢者・障害)への支援」が制度化されています。

時間の経過とともに様々な状況が寄せられてきたので、PCR検査においても障がい者本人の状況に合わせて付添は一人に限定しないことや、検査時間等の合理的配慮を求められること、宿泊施設や緊急短期入所についても具体的に連携施設を決めてほしいこと等、要望書を提出予定

です。ケアラー(障がい児者、乳幼児、高齢者を介護する人)だけでは、本人たちを守ることはできません。支援して下さる体制や制度が拡充することを要望します。災害時における自助、共助、公助を考えると、自分たちでできること、支援して下さる方たちとできること、横のつながり、様々なつながりの中で準備することが大事だと思っています。そのため、これからも学びと実践と連携と運動は、あきらめずに続けていきたいと思っています。



新型コロナウイルス感染症の発生をうけて①

理事・法人本部長 後藤 強

「おつめり」

新型コロナウイルスが世界中を席巻しています。日本でも今年1月に初めての患者が確認されて以降、感染はまたたく間に全国にひろがり、4月には緊急事態宣言が発令されるまでになりました。

ゆたか福祉会でも、2月末から3月上旬にかけ、法人内事業所利用者・職員の計5名が新型コロナウイルスに感染。事業所の閉鎖や利用者・職員の自宅待機、濃厚接触者の健康観察の実施や、更なる感染拡大を防止するための対策強化が求められました。

現場職員や利用者・ご家族の奮闘とご協力により、その後新たな感染発生は防ぐことができましたが、感染した利用者1名がお亡くなりになるといって、大変残念な結果となりました。

5月に入り全国に出されていた緊急事態宣言も解除されましたが、第2波・第3波の到来も予測されており、感染防止対策は引き続き最重要課題となっています。

関係者に感染が発生した当時の状況や、その

後の感染防止対策のとりくみなどを、今回から数回にわたって掲載させて頂きます。

「1. 新型コロナウイルス感染の発生

法人の事業所が集中する名古屋市南部の地域に、感染者が出始めたのが2月中旬でした。熱田区や港区のスポーツジムでの感染発生です。同じジムに通っていた法人職員もおり、利用の履歴を確認しましたが、幸い感染者との接触はありませんでした。しかし、それまでニュースでしか感じることがなかった感染のリスクが、「いよいよ身近に迫ってきたな」という思いでした。

南区内にあるグループホームの一つで、利用者が相次いで高熱を出し入院したのが、2月下旬でした。そのホームは50〜80代の高齢の方が入居されている定員5名のホームですが、1階に居住されている3名の方が、2月23日、25日、27日と、相次いで高熱と肺炎症状で入院されることになったのです。年齢的に発熱等の体調不良があってもおかしくはないのですが、2人、3人と続くと、さすがにコロナへの感染を疑わざるを得なくなりまして。3人目の入院の時点で、

病院にはPCR検査を行なうよう再三にわたってお願いしましたが、当時はまだ症状も重篤でなく渡航歴もないことを理由に検査はしてもらえませんでした（後になって分かったことですが、病院側も早い段階で保健所には検査の打診を行っていたようです）。

そうこうしているうちに、最初に入院した方が重症（人工呼吸器装着）となり、29日未明に病院側が再度保健所に要請し、やっとPCR検査が実施されることになりました。29日の夕方には重篤となった方の感染が判明し、続けて検査を行った他の2名の方も、3月1日の夕方に感染が判りました。

29日の時点では、名古屋市としてはまだ24例目の感染でしたし、全国的にも福祉施設での感染は殆ど報道されていない段階でしたので、予想外の結果に大きな衝撃がはりました。

「2. 緊急に対策会議を招集

感染が判明した29日の夜すぐに、関係事業所の管理職を集めて対策会議を開催。翌3月1日には、名古屋市障害者支援課の担当官も来所さ

れ、一日かけて過去2週間にわたる3人の行動履歴の洗い出しと、感染経路の推定や濃厚接触者の特定を行いました。また、その結果に基づき、関係施設事業所の閉鎖と利用者・職員の自宅待機について協議しました。

行動履歴の洗い出しでは、感染経路は不明のままでした。感染した3名はホームに入居しながら、昼間は作業所や高齢者デイサービスを利用し、休日には、ヘルパーを利用しての買い物や外出などを楽しまれていました。接点のある関係者や事業所はかなりの数になりましたが、一つひとつに連絡を取り、接触状況や関係者の健康状態の確認を行いました。しかし、当時報道されていた感染ルートとの関連を結び付けるものはなく、どこから感染したのかは全くわからないままでした。

3. 濃厚接触者の自宅待機と事業所の閉鎖

ともあれ、感染をこれ以上拡大させないためには、3名に濃厚接触したと考えられる全ての関係者の行動を制限し、自宅等での待機をお願いすることが必要でした。

感染は一つのホームでの発生でしたが、そのホームに勤務に入っていた職員13名全員に、当該ホームで最後に勤務した日から2週間、自宅待機をお願いしました。またこの13名は他の3

つのホームにも勤務に入っており、職員を介して感染が広がる恐れがあるため、その3ホームの利用者についても、2週間、それぞれのホームで待機していただくことにしました。

感染が発生したホームに残る2名の方を加えると、全部で4ホーム16名です。ほとんどの職員が自宅待機となる中、これだけの利用者の支援を「誰がどうするのか」が、最大の課題でした。結果的には、法人内の他のグループホーム職員に応援勤務を要請し、2週間でなんとか乗り切ることができました。二次感染のリスクがある現場へ応援に入ってくださいった職員はもとより、それをバックアップしてホームを支えてくださった職員の皆さんに、改めて感謝をしたいと思います。

感染した3名のうち2名は、近くにある法人内の作業所に通っていましたので、その作業所についても2週間の閉鎖と、利用者・職員の自宅待機をお願いしました。その他、感染した1名の方が通っていた法人内の高齢者サービスも、2日間に限って閉鎖し、利用者・職員の待機をお願いしました。また、法人内の別のホームの同居者が、この高齢者サービスを利用していました。このホームは基礎疾患などを抱えた方が多く、万が一感染が発生した場合、非常にリスクが高いということで、このホームの居住者全員も念のため、2週間ホームで待機することになりました。

4. コロナ感染の怖さ

事業所の閉鎖と自宅待機の期間中、新たに2名（職員1名、利用者1名）の感染者が出ましたが、それ以上にひろがることはなく、3月16日からは、平常の運営に戻ることができました。退院された4名の方も入院期間は長短ありましたが、今は元の生活に戻られています。

感染は1ホーム3名でしたが、結果的に法人内の待機者は利用者・職員合わせ100名近くに上りました。法人外で影響を受けた方も含めると、その数は更に多くなると思います。そして、それぞれの人が2週間あまり、普段の活動をストップすることになったわけです。

感染による病理の怖さももちろんですが、これだけ多くの関係者にその影響が波及し、日常の活動がストップしてしまうことも、未知のウイルスの怖さといえます。



2020年度 資格取得者紹介

今年も多数の職員が新たに資格取得をされました。例年は4月に開催する職員集会の席上で紹介しますが、今回は職員集会を開催することができなかつた為、広報誌上で紹介します。資格を取得してからが新たなスタートです。皆さんの今後の活躍に期待しています。

Question

資格取得を目指そうと思った動機
資格を活かしてこれから頑張りたいと思うこと

社会福祉士



ゆたか希望の家 福田 明日風

高校生の時、「社会福祉を学んでみたい」と思っていたところ、社会福祉士を知ったのがきっかけでした。取得できたからには、仲間のことを知ることから始め、学んだことを活かせるようにしていきたいと思います。



ゆたか希望の家 早川 遥

祖父が介護福祉士を取得しており、70歳を超えても福祉の専門職として活躍する姿を見て、私も福祉の専門職を志しました。社会福祉士として学んだ知識を実践と繋げていけるよう、これからも努力していきます。



ゆたか通勤寮 後藤 麻友香

自分自身のスキルアップのために、取得しました。1年間、勉強のために職場の皆さんにはご迷惑をおかけしました。色々な視点から支援を展開していけるように、これからも学びを続けていきたいです。



ゆたか生活支援事業所 かさでら 佐藤 美也

資格を取得しようと思ったのは、資格があることで「福祉の仕事を幅広くできるのではないか」と思ったからです。これからは現場での経験を積み、「社会福祉士の資格を活かしていけたらいいな」と考えています。



ゆたか生活支援事業所 なるお 細江 篤史

福祉系の仕事をするうえで、人と関わることに必要な事は信頼を得る事だと思っています。資格を所有していることは、「初対面の人でも、安心できるのではないか」と思いました。真摯に仲間と向き合った支援をしていきたいです。



グループハウスなぐら 岩崎 誠

大学の友人がスクールソーシャルワーカーを行っており、いろいろと話を聞くうちに福祉や介護の仕事が身近に感じ、「自分に向いているかもしれない」という思いから、社会福祉士を目指しました。学んだ知識を活かし、仲間の立場に立って仕事をしていきたいです。

介護福祉士



ゆたか作業所 池内 由香子

介護福祉士の資格を取ろうと思ったのは、「漠然と取ってみようかな」でした。これからは、実習や勉強で得た技術や知識を活かすことができるように、頑張っていきたいと思います。

保育士



ゆたか生活支援事業所 あつた 山内 麻友美

子どもが好きで「子どもに関わる仕事がしたい」と思い、保育の学校に行きました。そして以前、障がい者施設でボランティアをしていたこともあり、「働きたい」と思いました。保育で習ったことを思い出し、仲間との楽しみを作っていきたいと思います。

介護福祉士



みのり共同作業所 河村 聡

「資格を取得し、己を成長させたい!」という気持ちから、挑戦することになりました。忙しい中でも自分なりに時間を見つけ、臨めたかと思えます。取得したことに満足するのではなく、今後の支援にしっかりと活かしていきたいです。



みのり共同作業所 丹羽 成利

10年以上働いてきてベテランと言われるようになり、「専門的な知識を身に付けたい」「スキルアップしたい」と思うようになりました。昨年、全職員集会で後藤理事から資格取得の話聞き、スキルアップを図ろうと思いました。



なるみ作業所 中垣 由香

実務者研修を通して、介助の実践研修の様々な場面で「利用者の立場に立つ」という貴重な体験をする機会に恵まれました。改めて「支援される側」に立った時の利用者さんの気持ちが、ほんの少しだけですが見えた気がしました。



なるみ作業所 箕浦 純子

初任者研修のステップアップとして、実務者研修を受講しました。“介護の基本原則”を常に心に留め、現場での実践に活かしていきたいと思えます。



ゆたか希望の家 水上 春花

私は仲間について理解を深め、「仲間の高齢化にも、対応できるようになりたい」という思いから、介護福祉士を目指しました。今後は今まで以上に、仲間一人ひとりに寄り添った支援ができる支援員を目指して、頑張りたいです。



ゆたか希望の家 井上 ひかる

介護分野の知識がほぼ皆無のままゆたか福祉会に入ったので、勉強を通して改めて一から介護の世界を知ろうと思えました。利用者の皆さんの生活が豊かになるような支援を、今まで以上に心がけていけたらと考えています。



つゆはし作業所 高階 清美

経験や挑戦をコツコツ積み重ねていく仲間達を毎日見ている、「私も何か挑戦しよう」と思い受験しました。高齢化していく仲間介護の力が必要になった時、私の経験や知識が私の人生にも何か残せるのではないかと考えています。



ゆたか生活支援事業所みどり 國島 昂

仲間の高齢化の波への対応は、入所、入居施設の大きな課題です。このことに対応出来るよう「知識、技能を学びたい」と思い、取得を目指しました。資格が形骸化しないよう、学ばせて頂いた知識と技術を、現場で活かしていきたいです。



あかつきヘルパーステーション はなキリン 仲田 しのぶ

入社して4年目になり、介護福祉士の受験資格を得られて受験を決めました。試験日までの間、職場の皆さんに助けていただきながら勉強し、合格出来ました。その時の感謝の気持ちを忘れずに、今後も仕事に取り組みたいです。



ライフサポートゆたか 市原 佳恵

全く福祉の知識や経験がないまま入社して5年が経ちました。改めて自分が行ってきた支援や事業について深めたいと思え、資格取得を志しました。勉強で得た知識を普段の仕事にも活かせるよう、これからも頑張っていきたいです。



ライフサポートゆたか 早勢 滋

介護福祉士の資格を取得したからといって、「何かが大きく変化した」という実感はありません。高齢化や重度化を含め、仲間の状況に合わせた柔軟な支援ができるよう、専門的な知識や技術の学習を続けていきたいと思えます。



グループハウスなぐら 山口 咲良

取得を目指した理由は、介護職として働く際にしっかりと知識と介護技術を身につけておきたいと考えたからです。資格を活かして、支援や介護を丁寧に行い、これからは支援計画なども作れるように頑張りたいです。

コロナの中でも工夫して

オリジナル立体マスク 好評販売中!!

ゆたか作業所

ゆたか作業所では四月より、布製マスクの製造と販売を始めました。この二か月余りで千六百枚を超えるマスクを縫い上げ、四十二万円を売り上げています。現在は、第一弾の「オリジナルマスク」に加えて、第二弾の「夏用涼感マスク」を販売しています。

リーマンショックの教訓を活かして

ゆたか作業所の現場は下請けの作業が多く、コロナウイルス感染拡大の影響で、仕事が激減することが予想されました。二三年前、二〇〇八年のリーマンショックの時に仕事がなく、毎日仲間と何をして過ごすのか困ってしまった日々を思い出しました。仲間の給料と仕事を保障するために、至急対応する事が課題になりました。

マスクを作ろう!

その頃、巷ではマスク不足が騒がれ、入手が困難になっていました。そんな中、「縫製現場でマスクが作れないか」という検討がスタートしました。

取引のある布を扱う企業の社長さんに話すと、材料となるガーゼ布を確保することができました。ゴム紐も問屋と調整し、中国からの船便を待つて調達することができました。職員も様々な型紙を集めて、「どんな形のマスクが付け心地が良いのか」と、試作品をいくつも

作りました。

吹き飛んだ不安、喜ばれるって嬉しい

材料が集まり、形が決まると、いつもはフキンを製造している仲間たちが、マスクを縫い始めました。しかし、直線縫いのフキンとは違い曲線が多く、ガーゼ生地伸び縮みの激しい布での縫い作業は困難を極めました。「むずかしいの……」いつもは自信たっぷりなフキンを縫っている仲間も、不安になっていました。

そんな時、出来上がったマスクを一緒に近所のケーキ屋さんに売り込みに行くと、「かわいいマスクだね!是非置いてっ!」と喜ばれました。その後も次々と追加注文が入り、仲間も納品のたびに「私、縫つとるの!」と、店員さんに嬉しそうに話す姿がありました。現場に戻ってくると「店の人、ありがとうだつて!」とみんなに報告もしていました。「もつとやらないかね」ゴム紐を通す仲間も、さらに頑張りました。

工夫とつながりの中で

ケーキ屋さんからの追加注文も、「男性用の柄がほしい」「Mサイズを多めに」と好調に売れていました。ゆたか福祉会内のグループホームやヘルパーさんからもたくさん注文を頂きました。職員も「こんな型が出ているよ」「この布柄は夏向きかな」と色々な情報収集

をしました。

布の企業の社長さんからも「珍しい柄の布あるよ!」と持ってきて頂いたり、問屋さんにも「月末、ゴム紐入荷するから取り置きする?」と聞いて頂いたりしています。マスクの生産を通じて、活気が出てきた「にぎわい班」です。

この取り組みを通して、仲間たちが感謝をされながら社会と繋がり、役割を持つことの大切さを実感しました。今後もコロナウイルスの終息を願いつつ、第三弾、第四弾を考えていきたいと思っています。

松永誠司



販売価格

- ・1枚 300円
- ・3枚セット 800円(100円お得)
- ・100枚セット(卸価格) ...20,000円

※全て税込価格です。

※サイズは写真を参考に向かって左側よりS、M、Lになります。

※柄はお任せになります。柄やサイズなどを選ぶ場合は直接現場にお問い合わせください。

感謝の言葉が次々と
大いに盛り上がったクレープ祭り
なるみ作業所

この間、コロナウイルスによる影響で、外出できない日々が続く、作業所でも恒例の行事や取り組みが中止になってしまいう事が増えてしまいました。仲間は事態を受け止めつつも残念な思いは隠せずといった状況で、「今できる範囲で、仲間喜んでもらうイベントを考えよう」と話し合いました。そして「笑らシエ（わらしえ）」というクレープ屋さんに協力してもらい、クレープ祭りを行う事になりました。

「笑らシエ」の大江さんは、障害者施設で働いた経験を活かし、作業所等の障害を持った方の施設に赴いてイベントを行っています。今回はせっかくの機会なので、お祭りを作り上げる段階から仲間に参加してもらいました。絵や文字を書くのが得意な仲間には、チケットやポスターの作成、音楽の好きな仲間には、BGMを考えてもらったり、開幕大鼓の準備をしてもらったりと、仲間と共に楽しい想像を膨らませながら、笑顔で準備を進めました。

そして当日！クレープ祭りは、予想以上に盛り上がりを見せました！おもいおもいのフレーバースーツを選び、フルーツもクリームもたっぷり入ったクレープをほおぼると、思わず誰もが笑顔になってしまいます。歌を歌ったり、太鼓を叩いたりしながら、あつという間に時間は過ぎていきました。お祭りの終盤で代表の仲間が感謝の言葉を伝えると、他の仲間も次々と手を挙げ、自分自身の言葉でクレープ屋さんに「ありがとう」を伝える姿がありました。

仲間と共に作り上げる中で、職員自身が改めて気づかされる事がたくさんありました。仲間の新たな一面や力を知る事が出来たことはとても大きく、様々な可能性を感じました。こうした素晴らしいイベントを開催できたこと、協力して頂いた職員、仲間、「笑らシエ」の大江さんに感謝申し上げます。

小澤万結



ゆたか福祉会 2019 年度工賃実績報告

		2019年4月1日 現在の定員	2019年度 平均支払人数	2019年度 平均工賃(月額)	2018年度 平均工賃	増減 2019-2018	工賃向上計画	
							2019年度 目標工賃	2020年度 目標工賃
就労継続 B	ゆたか作業所	15	8	29,825	35,035	- 5,210	30,000	31,000
	なるみ作業所	10	6	29,166	31,114	- 1,948	30,793	31,011
	つゆはし作業所	10	10	18,183	16,052	2,131	13,750	14,000
	ワークセンター フレンズ星崎	15	15	51,200	52,180	- 980	58,378	64,865
	トライズ	15	13	25,973	24,464	1,509	26,034	30,303
	リサイクル港作業所	40	41	48,403	67,435	- 19,032	53,238	53,352
	リサイクルみなみ作業所	35	36	73,303	74,340	- 1,037	76,111	78,111
	小 計	140	129	49,013	54,827	- 5,814		
生活介護	ゆたか作業所	40	29	8,905	10,721	- 1,816		
	なるみ作業所	35	26	3,842	4,189	- 347		
	つゆはし作業所	20	26	7,852	6,816	1,036		
	ワークセンター フレンズ星崎	15	17	7,324	5,700	1,624		
	リサイクル港作業所	10	8	5,418	5,281	137		
	みらいる	30	8	5,115	-	-		
	みのり共同作業所	30	33	12,549	11,646	903		
	ふれあい共同作業所	30	29	5,611	6,057	- 446		
	あかつき共同作業所	30	30	10,592	10,497	95		
	小 計	240	206	8,187	8,146	41		
移行支援	ワークセンター フレンズ星崎	6	4	10,150	4,829	5,321		
就労継続 A	トライズ	15	13	187,229	174,575	12,654		
	総 計	401	352	30,408	33,232	-		

4～6月の実績
7～3月の実績

就労継続支援 B 型事業所では利用者の工賃をさらに引き上げていくため、「第 3 期工賃向上計画」を推進しています。また生活介護事業所でも作業を位置づけて工賃を支払い、その充実に取り組んでいます。2019 年度の平均工賃は、2018 年度と比べて就労継続支援 B 型では、5 千円以上減少し、生活介護ではほぼ横ばいになっています。工賃向上計画を作成している就労継続支援 B 型のうち、多くが目標の工賃額を達成することができませんでした。作業が減少したり、利用者の入れ替わりが影響したりとそれぞれに理由があります。課題と向き合いながら引き続き工賃の引き上げに取り組んでいきます。

私のおすすめ
読んでみませんか

『パンデミックを生きる指針 ―歴史研究のアプローチ―』 (藤原辰史)

理事長 鈴木清覺



私がこの小論文に接したのは、友好法人である京都の「よさのうみ福祉会」理事長の青木一博氏からの紹介によってである。本小論は京都大学の准教授で、農業史の若手研究者藤原氏によって書かれたものである。今日のウイルス禍に戸惑う我が国の人々に向け、4月はじめにインターネット上で発表された短いテキスト版の小論は、1週間で30万件を超えるアクセスがあったという。私がこの小論を多くの関係者に読んで欲しいと思うのは、人類は農耕定住がはじまって以来、自然界のウイルスとの長い戦いと共存の歴史であったが、しかし、その教訓化がすっかりされていない。この小論は、そうした歴史をふまえて、どう教訓化し、対処すべきかを考え、更に我々医療や福祉に働く人々を位置づけている好書であると思うからである。

小論では、「人間という頭でっかちな動物は、目の前の危機よりも、遠くの輪郭のぼやけた希望にすがりたくなる癖がある」と楽観主義を戒め、歴史の冷酷な事実を突きつけている。著書が学ぶべき歴史の教訓は、100年前の「スペイン風邪」だと指摘する。このインフルエンザウイルスは、アメリカ発で第1次大戦中

に全世界に広がり、日本は米騒動とロシア革命後のシベリア出兵のさ中だった。世界での死者は5千万人も1億人ともいわれ、日本でも40万人前後が亡くなったと言われている。当時の世界人口は17億人で今日は75億人である。医療技術もインターネット通信も発達しておらず、WHOも存在していない現実を比較すれば「現在のほうが有利だと思いたい、そうは思いつらい」と語る。そして1918年から1920年まで、あしかけ3年をかけて3度の流行を繰り返しているスペイン風邪の教訓として8点を指摘している。

この小論の最後には、武漢の封鎖の中で綴った作家の日記の文が引用されている。「1つの国が文明国家であるかどうかの基準は、高層ビル多いか、クルマが疾走しているとか、軍隊が強いとか、科学技術が発達しているとか、お金が在るとかではない、基準はただ一つしかない、それは弱者に接する態度である」なかなかみごとな教訓化である。多くの関係者に一読願いたい。

この小論文は、ゆたか福祉会HPにアップしています。ぜひ、ご覧下さい。

2020年度 正規採用職員紹介

(6月1日付加入職)

question
趣味・好きなことは
なんですか？



第2ゆたか希望の家 向山 涼太

趣味・好きなこと：運動、ランニング、友達と遊ぶこと

「出会い」は、理学療法士の資格の勉強をしている時に、友達に紹介してもらったのがきっかけです。採用試験を受け、今働いている「第2ゆたか希望の家」を見学させて頂き、「ここで働きたい」と思いました。

入職してまだ日が浅く、仲間とのかかわりや仕事の流れなど覚えることが多く、今は必死な毎日です。一日でも早く覚えて、理学療法士の勉強の知識を活かしながら、自分にできることを精一杯、頑張りたいです。



5月

日誌

- 18日(月) 事業運営推進会議
- 20日(水) 研修部会議
- 22日(金) 副所長会議
- 26日(火) 監事監査
- 27日(水) 所長会議
- 30日(土) 理事会
- ※監事監査、理事会以外はWeb会議

一般寄附(4・5月)

末田 喜一
イオン新瑞橋店

賛助会員新規加入者
・更新者(芳名一覧)

(5月25日～6月13日手続き分)

順不同敬称略

太田 祐周 駒村 忠俊
末田 喜一 野原 信一
鈴木 峯保

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

きょうされん 第43次
国会請願署名・
募金活動のお礼

本誌12月号でもお願いをしました、きょうされん第43次国会請願署名・募金活動につきましても、たくさんの皆様からご協力を頂き、ありがとうございました。

今回は、新型コロナウイルスの影響により、国会請願活動を行うことはできませんでしたが、きょうされん愛知支部を通して、11名の方に紹介議員になって頂き、署名をお渡しすることができました。

到達状況

きょうされん愛知支部

署名97,822筆、募金1,662,339円、

内、ゆたか福祉会

署名24,381筆、募金442,749円

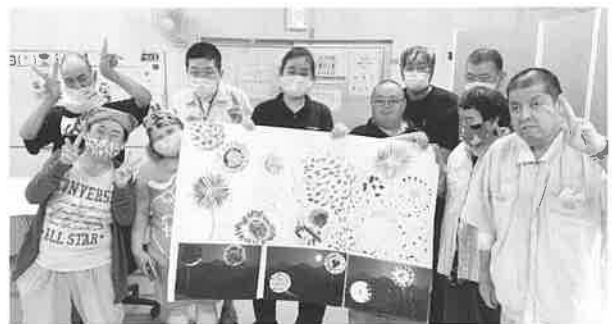
表紙の作者紹介

「いろいろな花火」

共同制作 つゆはし作業所のみなさん

皆さん初めからノリノリの様子で、「この色にする!」「こうやってやるのも面白いね!」と、様々な意見とアイデアが多数出される中、それぞれが思い思いの「世界に一つだけの花(火)」を完成させました。

大きなもの、可愛らしいもの、控えめなもの、色も形も様々…。どれも一番ステキです!!制作中は、机の周りに大輪の笑顔の花火が咲いていました♪こんな花火、皆で観たいですね!! たーまーやー!!



広報・450号

2020年7月号(2020年7月10日発行)
定価1部100円

法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協会員費・賛助会員費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協会員費 = 年間1口 6,000円、
賛助会員(個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

仲間

「陽気なムードメーカー
実は粘り強い頑張り屋」

トライズ 木下 和也さん



トライズに新しく入った人を、すぐ和ませて笑顔にしてくれる木下さん。いつもユーモアいっぱいです。

ユニークな歌詞を創る才能もあり、新曲(?)披露の度にみんな大爆笑。ゆたか福祉会50周年募集時の掃除魂♡あふれる歌詞を紹介합니다。

トライズに新しく入った人を、すぐ和ませて笑顔にしてくれる木下さん。いつもユーモアいっぱいです。

ゆたか福祉会で国道23号下の駐車場清掃を行っていた2012年に、当時在籍していたふれあい共同作業所から「面白そうだし、お給料が増えるならやってみたい」と立候補。翌年に、リサイクルみなみ作業所の館内清掃を始めてからずっと清掃を続け、2015年からトライズB型で働いています。

清掃を始めた当初は、ほつぎを使うのも悪戦苦闘でしたが、今では床・トイレ・階段など、ほとんどこなせるようになり、黙々と仕事に励んでいます。風邪もひかなくなり、暑い中でも音をあげない頼もしい存在に成長しました。コンビニのトイレ汚れが気になり、思わず掃除したこともあつていっすー！



トイレ掃除は僕に任せて！

小関さつき

ぼくはいつもトライズで
そうじをがんばってる
ぼくのそうじはトイレ
あとですりをやっている
ダスターモップもやっている
かいだんそうじきもやっている
だけどいちはばんな
そうじはトイレそうじ
ぼくはトイレのそうじが
すきだよ
これからもトイレの
そうじしたいな
ららららららららら

職員

「悩みながらも
笑顔の絶えないホームでの日々」

ゆたか生活支援事業所みなみ 前田 ゆきな



入職して1年
が経ちました。
働き始めた頃は
「何をすればよ
いのか」「仲間どう
接すればよいのか」
とても不安でした。

仲間の気持ちを汲み取りつつ、その人にとつてどのような支援をするのがよいのか、どのように話せば伝わるのかなど悩みが絶えませんが、そんな時は他の職員さんと相談したり、会議で話し合い、一人ではなく皆で考えるようにしています。

「しかし、ホームへ行くと仲間から話しかけてくれ、『これはこうだよ』とホームのことを教えてくれたことが、とても嬉しく感じました。ほんの二部ではありますが、仲間のことを知るようになって、お互いに慣れてきたことも、お互いに慣れてきたこともあり、今では仲間から笑顔をもらう日々が続いています。私が今働いている生活支援事業所は、1つのホームに仲間が4、9人と少人数な為、仲間一人ひとりと接する機会が多い職場です。色々な話をしたり、仲間の要求を一緒に考えたりすることができ、楽しいと感じることが沢山あります。しかし、仲間支援にあたって『どうすればよいのか』『何が良くなかったのか』など悩むことも沢山あり、時には仲間と対立することもあります。今年度から事業所が再編成したことにより、職員の入れ替わりや勤務するホームが増えたりと、仲間にとつても私自身も変化がありました。まだまだ慣れないこと続きますが、仲間が普段の生活を穏やかに、かつ楽しく生活が出来るように支援をしていきたいと思っ



お鍋で炊いたご飯をすくい上げました！！